令和 7 年

第 1 回（3 月）波佐見町議会定例会

町政に対する一般質問

波佐見町議会

通告順位	1	通告者	6番 岡村達馬 議員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p>1. 本町における農業施策と対応について</p> <p>施政方針や町総合計画に問題と課題、主な取組が記されているが、農業者の高齢化と後継者不足への対策は喫緊の課題として取り組む必要がある。</p> <p>また、ここ1・2年を見ても資材や燃料などの高騰により、農家は苦境に立たされている。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1) 高齢化、後継者不足の問題は施策や計画などにも影響する。支援態勢の強化や推進はどうしていくのか。</p> <p>(2) 米、麦や野菜などの収量・品質低下につながる異常気象などに対する栽培管理体制の確立への具体的な対応とはどのようなものなのか。</p> <p>(3) 低農薬など環境に配慮した作付けが必要とされているが、本町がこれまでに実施した指導や施策はどのようなものがあるのか。</p> <p>(4) 資材や燃料などの高騰に対する営農者への支援や支給は考えているのか。</p> <p>2. 波佐見町キャンプ場に設置された2つの施設について</p> <p>町民や観光客が自然に親しみながら野外活動などを通じて健康等の増進を図ることを目的にキャンプ場が設置され、宿泊施設のドムアップテントとツリーフロアーテントが目玉となっている。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1) モニター等を通じて活用状況等を把握されたと思うが、使い勝手や利用料金などへの評価はどうだったか。</p> <p>(2) モニターの期間が短期間となったが、運用開始後の申込みなどの状況はどうか。</p>		

質問の相手	町 長

通告順位	2	通告者	1 番 前 田 博 司 議 員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p>1. 地域公共交通について</p> <p>川棚内海線の路線バス廃止の報道を受け、利用者のみならず多くの町民や川棚町の沿線住民も不安を抱いたが、4月より自治体自家用有償バスとして運行を予定されている。この短期間で途切れることなく運行のめどが立ったことに安堵している。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1) 自治体自家用有償バスと現在の路線バスの違いは何か。</p> <p>(2) 実際の運行については誰が行うのか。</p> <p>(3) 運行ダイヤの中で一部内海発とならない便があるのはなぜか。</p> <p>(4) 運賃の設定については、現行と同程度とした理由は何か。</p> <p>(5) 今後、長期的に路線維持をするために何が必要と考えるか。</p> <p>2. 文化・スポーツ振興について</p> <p>(1) 昨年12月議会で出された「総合運動公園の建設にかかる研究及び総合文化会館の機能充実を求める意見書」についての受け止めはどうか。</p> <p>(2) 中学校部活動の地域移行については、どのような進捗状況か。</p> <p>(3) 劇団等を招いての観劇を実施しているが、プロスポーツ観戦に対して補助する考えはないか。</p>		

質問の相手	町 長 ・ 教育長

通告順位	3	通告者	10番 田添有喜 議員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p>1. 安全・安心な環境づくりについて</p> <p>全国的に少子高齢化が町づくりの大きな課題となっており、本町でも例外ではない。そこで、安全で安心できる町づくりの推進は、本町の発展に大きく影響するものとする。中でも、高齢者の外出頻度を増やし、健康づくりに配慮した町づくりが重要である。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1) 運転免許証を返納することにより、高齢者の行動範囲はかなり制限を受けることになる。外出頻度の向上や健康維持・増進を考えたとき、自らの力で行動できる環境づくりが必要である。高齢者が利用しやすい歩道の整備や植栽(河川敷道路・駐車場等)の維持管理について、今後どのような計画があるのか。</p> <p>(2) 高齢者の外出支援として、「予約制乗合交通」以外にどのようなことを考えているのか。</p> <p>(3) 町内における高齢者の生活行動実態における危険個所の把握はできているのか。</p> <p>2. 部活動の地域移行について</p> <p>学校における働き方改革等も踏まえて、部活動を学校単位から地域単位の取組としていく方向性を2019年に国が示した。国から2025年までには地域の実情に応じて可能な限り早期実現を目指すというガイドラインが公表された。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1) 昨年9月(2学期)より、土・日の部活動は地域で行うと町は公表した。実施においての成果と課題は何か。</p> <p>(2) 指導者の処遇や保護者への支援について、町はどのように関わるのか。</p> <p>(3) 今後、行政と学校の役割をどのように考えていくのか。</p> <p>3. 波佐見町体育センターの管理と運営について</p> <p>体育センターは、町民の福祉の増進を図るとともに、体育及びレクリエーションの普及並びにその振興を図ることを目的として運営されている。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1) 体育センターの利用状況と利用上の課題にどのようなものがあるか。</p> <p>(2) 体育センターの備品等の管理や点検は、どのように行われているのか。</p>		

質問の相手	町 長 ・ 教育長

通告順位	4	通告者	4番 横山聖代 議員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p data-bbox="316 309 639 342">図書館の展望について</p> <p data-bbox="284 360 1445 450">図書館には、町民の知的探求や多様なニーズに応えるサービス、地域に根差した情報提供、居心地のいい空間づくりが求められている。</p> <p data-bbox="284 465 1445 607">近隣の市町には、素晴らしい図書館がある。自治体の背景や目的によって図書館の在り方もそれぞれあっていいと思うが、本町の図書館は現状のままでいいとは考え難い。</p> <p data-bbox="316 622 683 656">そこで、次のことを問う。</p> <p data-bbox="300 674 1445 869">(1) 令和6年12月6日付けで、町議会から町長へ意見書を提出した。その内容の一つに、「旧教育委員会事務局のスペースを有効活用できるよう改築・改修を施すなど機能充実に努めること」とあるが、それを受け今後の計画をどう考えているのか。</p> <p data-bbox="300 884 1445 974">(2) 図書館協議会委員の公募が令和5年12月に行われた。その後、協議会を開催されたと思うが、協議の内容及び委員からの意見はどうだったか。</p> <p data-bbox="300 990 1445 1184">(3) 本町の図書館につき、これまで議員から幾度となく、蔵書数、貸出冊数、閲覧スペース、学習スペース、読み聞かせスペース、図書館職員の作業スペース、図書館の入り口等について問題提起されているが、本町の図書館の展望をどう考えているのか。</p>		

質問の相手	町長・教育長

通告順位	5	通告者	9番 福田勝也 議員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p>1. 子育て支援について</p> <p>全国的に少子化が進む中、国・県・各自治体において、それぞれ子育て支援策が行われている。</p> <p>本町においても、小中学校の給食費無償化や第2子の保育料無償化などが実施され、子育て世帯の支援が行われている。</p> <p>また、2月21日に開所された「こども家庭センター・よりそっと」は、妊産婦から乳児、幼児、学童児と保護者や関係者への支援を目的に本町の子育ての拠点として整備された。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1) 本町のこの30年間の5年毎の出生数の推移は。また今後の予測は。</p> <p>(2) 本町における妊産期から出産、子育て等にかかる支援や給付金等の内容は。</p> <p>(3) 「こども家庭センター・よりそっと」の具体的な業務内容は。</p> <p>2. 学校教育について</p> <p>本町では子供たちの学力を伸ばす施策として、学力向上支援員や特別支援教育支援員、スクール・サポート・スタッフなどの人的支援体制の充実、また学校施設の適切な管理として改修工事などを計画的に行い、教育環境の充実と維持に努めている。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1) 学力向上支援員など人的支援の配置は、各学校どのように配置しているのか。また、その配置によりどのような成果が見受けられるか。</p> <p>(2) 学校施設の長寿命化計画はどのように計画されているのか。</p> <p>(3) 今後、小学校の統合など学校編成についてはどのように考えるか。</p>		

質問の相手	町 長 ・ 教育長

通告順位	6	通告者	8番 城 後 光 議員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p>1. 町職員の就業環境改善について</p> <p>全国的な賃金上昇に伴い、民間企業や他自治体との採用競争が激化し、本町でも応募者の減少、内定辞退、早期退職が増加している。一方、委任事務等の増加により、職員全体の総業務量が増え、残業時間も高止まりしている。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1) 職員の確保と定着、現状の課題認識と、他自治体や民間企業との競争において、本町が選ばれるための施策は何か。</p> <p>(2) 業務効率化や給与・勤務時間・休暇制度の見直しなど、今後の具体的な対応策は。</p> <p>(3) 管理職手当・通勤手当や会計年度任用職員の給与水準は、周辺自治体と比較してどうか。</p> <p>2. 波佐見焼産業の振興について</p> <p>本町の基幹産業である窯業は、物価高騰や業界の縮小による人材不足、特に陶石採石や機械製造・維持の事業者減少など深刻な課題に直面している。</p> <p>また、核家族化や生活スタイルの変化により、食器の消費動向や流通形態も変化し、波佐見焼に関わる業界は大きな転換期を迎えている。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1) 町として、窯業界の将来像をどう描き、産業維持のためにどう支援を行う考えか。</p> <p>(2) 地場産業発展のために、民間事業者や町民に期待する役割は。</p> <p>(3) 新たな担い手確保のための美術系大学や高校とのさらなる連携強化の考えは。</p> <p>(4) 「長崎県窯業技術センター」に対して、どのような役割を期待しているか。</p>		

質問の相手	町 長 ・ 教育長

通告順位	7	通告者	3番 澤田昭則 議員
質問事項及び要旨	<p>1. 施政方針について</p> <p>令和7年度の主な施策として、持続可能な自治体運営と町民の福祉の向上、町の活性化を図りつつ、自治体間の競争を勝ち抜く施策が重要とある。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1) 小児科誘致の補助制度の創設とあるが、どのような考えで創設されるのか。</p> <p>(2) 町制施行40周年記念事業プレイベントの記念行事として、平成8年3月3日に第21回町壮年駅伝大会が盛大に開催された。</p> <p>令和8年3月3日も「はさみの日」と銘打って何か記念行事が開催できないか。</p> <p>(3) 窯業振興において就活に役立つインターンシッププログラム「オープンハサミ」は、県や業界団体の協力で実施されているが支援等の内容と今後の取組は。</p> <p>(4) 陶器まつり期間中の「絆の日」の休日実施について、保護者・学校・地域へのアンケート調査や検証などの今後の実施予定は。</p> <p>また見直す考えはないのか。</p> <p>2. 安全・安心を実感できるまちづくりについて</p> <p>防犯カメラの設置は、児童・生徒の見守りなど地域防犯組織の意識醸成が図られる中、交通安全の推進や交通事故の防止対策、また事件における犯罪の抑止と犯罪者の特定に大きな効果があり、早急な対策が必要である。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>(1) 街灯防犯カメラのネットワーク整備促進において、主要な道路や交差点及び公共施設に設置して、地域や町民の安全・安心の確保が必要と考えるがどうか。</p> <p>(2) 町民を犯罪から守る対策として、住居や事業所等に対して防犯カメラ等の設置にかかる費用を補助できないか。</p>		

質問の相手	町 長 ・ 教育長

通告順位	8	通告者	2番 脇坂正孝 議員
質問事項及び留意点	<p>1. 町制施行70周年記念行事について</p> <p>本町は昭和31（1956）年6月1日、上波佐見町と下波佐見村が合併し、新たに波佐見町として誕生した。令和8年は70周年を迎えるに当たり、記念式典や記念事業などが実施されるかと思う。</p> <p>そこで、計画の概要等について次のことを問う。</p> <p>(1) 開催時期や規模など基本計画はあるのか。</p> <p>(2) 記念事業としてどのような計画があるか。</p> <p>(3) グローバル時代の今日、国際的な視野を持つ人材を育てる必要がある。</p> <p>記念事業の一環として、将来の本町そして日本を担う中学生を中心とした海外派遣を実施してはどうか。</p> <p>2. 施政方針について</p> <p>施政方針に学校施設の適切な管理と農業振興について示された。</p> <p>そこで、詳細について次のことを問う。</p> <p>(1) 計画されている工事の箇所や工事内容等について</p> <p>①長寿命化計画に基づいた改修工事の学校別、概要、計画年度、工事費の概算額は。</p> <p>②バリアフリーに対応した改修工事の学校別、概要、計画年度、工事費の概算額は。</p> <p>③工事の設計・監理は所管部署が主に担当しており、慣れない職員が対応するため課題は多く効率はよくないと聞いている。</p> <p>今後は所管部署と工事専門部署による分担制にできないか。</p> <p>(2) センチピードグラスの普及について</p> <p>小規模農林業事業として、「センチピードグラス」吹付工法による事業が6年度から補助対象メニューとなった。</p> <p>①普及が進んでいないと聞いているが、申請状況はどうか。</p> <p>②普及が進まない理由をどのように分析しているか。</p> <p>③普及のための対策はどうか。</p> <p>(3) 農林業経営支援事業の助成条件について</p> <p>①助成対象事業者は。</p> <p>②助成対象とする農業機器等は。また助成額は。</p> <p>③予算額は。</p>		

質問の相手	町 長 ・ 教育長

通告順位	9	通告者	7番 三石 孝 議員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p>1. 空き家対策について</p> <p>人口減少に伴い、本町でも空き家の増加が懸念される。町長の施政方針にも挙げられた「波佐見町空き家等対策」を含め、次のことを問う。</p> <p>(1) 空き家の現状はどうか。</p> <p>(2) 課題と対策はどうか。</p> <p>(3) 「波佐見町空き家等対策」の基本方針は。</p> <p>2. 窯業振興について</p> <p>燃料費をはじめ資材費等の高騰、また賃金の上昇は、窯業の各業種において経営を圧迫していると聞く。</p> <p>そこで、持続可能な地場産業の発展のため、次のことを問う。</p> <p>(1) 現状の課題と支援策はどうか。</p> <p>(2) 今後の対策はどうか。</p>		

質問の相手	町 長

通告順位	10	通告者	11番 北村清美 議員		
質問事項及び旨	<p>1. 高齢者対策について</p> <p>2017年の国連推計データによると「2007年に生まれた日本の子供の半数は107歳以上まで生きることが予想される」とある。我々ほとんどない長寿社会を迎えることになったと思われ知らされる記述である。しかしながら、老年医学の中で高齢者研究は65～74歳の準高齢者を対象としたものがほとんどであり、健康の方が少ない75歳以上の「本当の高齢者」といわれる年齢層を対象にした研究はあまり見当たらないのが現状である。</p> <p>既に75歳以上の高齢者人口は（2008万人、16.1%）と65～74歳人口（1615万人、13%）を上回っている。指針のエビデンス（根拠）がないため、かつて人類が経験したことがない75歳以上の「健康と生きがい」を考えざるを得ない。そのためには「エイジング・パラドックス（高齢者の幸福感）」・「エイジズム（老人差別）がない世界」、そして、old-old（後期高齢者）が、徒然草のごとく「存命の喜び、日々に楽しまざらんや」を目指さなければならぬと考える。</p> <p>そこで、次のことを問う。</p> <p>（1）介護に関する状況は。</p> <p>（2）ビジネスケアラーの実態と対策は。</p> <p>（3）一人暮らし世帯への現状と対策は。</p> <p>2. 創業者支援策について</p> <p>波佐見町は歴史的に農業と窯業が醸成された土地柄である。基本となる農業がしっかりしているからこそ、産業（窯業）が発達して、先人たちが全国に販売網を確立し、また、海外まで販路を広げ、地場産業の礎となった。今後もこういう風土・気質・住民の活気にあふれた町であり続けなければならない。だからこそ、まち・民間ともども新しい企業の創生と育成をとことん構築・支援すべきと考える。</p> <p>スタートアップ及びベンチャー企業支援の状況と支援政策は。</p> <p>3. 本町職員の働き方・福利厚生・環境などについて</p> <p>昨今の人材争奪、賃金、福利厚生などが想像を絶するスピードで変化しており、本町では人材獲得もままならない事態と聞く。また民間では「初任給41万円」を超える企業が数社あり、それに伴って、若手既存社員に「月額10万円」近い</p>				

増額を提示する企業もあると聞く。それに加え海外との所得格差、また円安のため海外に新天地を求める若者が後を絶たない。そして、今や日本は他国に比べ遅れを取っており、この格差が縮小する気配はなく、本当に憂慮される深刻な事態である。こんな状況の中でも、本町の「役場」は魅力的で尊敬される職場であり続けなければならない。

そこで、次のことを問う。

(1) 本町の職員採用の現状と対策は。

(2) 職員の福利厚生と職場環境及びモチベーション維持などにおける対策は。

質問の相手	町 長

通告順位	11	通告者	5番 岡村 真由美 議員
質 問 事 項 及 び 要 旨	<p>1. 上・下水道の現状について 水道水のP F A S汚染問題や道路の陥没事故に関する報道が続いている。 そこで、次のことを問う。 (1) 上水道に関して、本町ではどのような安全対策が講じられているか。 (2) 本町の上・下水道事業に関して、管路の補修計画はどうなっているか。</p> <p>2. 高齢者施設の現状について 今年は介護保険制度が発足して25年目の節目の年である。また団塊の世代全てが75歳以上となり、超高齢社会が到来する。 そこで、次のことを問う。 (1) 本町では65歳以上の月額介護保険料が減額となっているが、その要因は。 (2) 全国的に訪問介護に携わる人が不足し、廃業に至る事業所が増えていると聞くが、本町においてはどうか。</p> <p>3. 農林業の振興について イノシシ対策のワイヤメッシュが平地でも目立つようになった。根本的な駆除のためには、荒れた山間部の手入れが必要である。 そこで、次のことを問う。 (1) 有害鳥獣駆除の現状及び今後の課題は。 (2) 林道の現状は。また整備の計画はあるか。</p>		

質問の相手	町 長